



武蔵村山市立第八小学校

ふれっチャ・スクールだより

第 11 号

平成 31 年 3 月 1 日

<http://musashimurayama.ed.jp/mmced8s/>

今号は、学校運営協議会委員のお二人から、「武蔵村山高校と八小」と「地域住民からみた八小」をテーマに、執筆いただきましたのでご紹介させていただきます。

武蔵村山高校と八小との交流

都立武蔵村山高等学校

主任教諭 大塚 進

(八小CS：ふれっチャ部会)

武蔵村山高校は、地域との交流を大切にする高校であろうとしています。在校生の 77%が自転車のみ、徒歩のみで通学し、武蔵村山市在住の生徒が 25%などの数字を見れば、本校が地域の学校であることが明らかです。それゆえ、地域に愛される学校でなければならないことは明白です。安心して通わす・通うことのできる武蔵村山高校でなければなりません。



武蔵村山高校では選択講座の一つに「小学生講座」を置き、ふれっチャ・クラブに年間 15 回ほど 30 名前後の生徒が八小に来ています。高校生にとって座学では得られない、素晴らしい経験をさせていただいています。高校生と小学生が触れ合うことで、互いに親近感を持つようにもなります。このような経験を十数回だけで終わらせるのはもったいないと感じています。



武蔵村山高校の生徒はボランティア活動の一環として、毎年夏休み期間中に、十小と五中に学習支援に行っています。八小でも募集すれば、必ず参加者がいると思います。他にもボランティアで参加できるようなイベントがあれば、八小とのさらなる交流ができると期待しています。八小での活動は本校にとって、貴重な地域貢献の一つであり、交流の機会を増やすことができれば、武蔵村山高校にとってもありがたいことなのです。

八小が地域の核に

民生委員・児童委員

疋田 美登里

(八小CS：学習支援部会)

子どもを取り巻く環境や社会の変化により従来あまり問題にならなかった事柄や以前には無かった新たな問題が出てきました。

その一つに「地域の教育力の低下」が挙げられます。様々な原因が考えられますが、要は、地域の子どもの地域で守り育てる事が難しくなっているのです。

町の要と言えば町内会や神社などでしたが、その役割の如何も地域により大きな差があります。でも、どこの市町村でも変わらない役目を担っている所が地元の学校です。子どもの健やかな成長のために、学校が地域の核となってくださっています。



我が家の子ども達も、八小のお世話になりました。子ども会・自治会・青少対・少年野球などを通じ、多くの方々と関わり合いながら過ごしてまいりましたが、その中心はいつも八小でした。ところが子どもが卒業すると、保護者の関わりもそこで途切れてしまいます。私も子どもの担任の先生と相談しながら絵本の読み聞かせをしていました。時には多くのお母様方が班を作って活動したこともありました。そんな活動も在学中のみでした。

八小と距離が出来てしまってから長い年月が経ちましたが、学校運営協議会委員に加えて頂き微力ながらお手伝いが出来て、とても嬉しく思っているところです。私が気づかなかっただけで、八小もこの地域の皆様もずっと協力して様々な活動に取り組んでおられました。



今、私は「なるほど塾」と「ふれっチャ・クラブ」のお手伝いをしています。もともと子どもが好きで、仕事も子どもの教育に関わる事ですので、お手伝いも楽しいのです。「ふれっチャ・クラブ」では、武蔵村山高校の生徒さんともお話し出来て、これも楽しいです。地域で時間のゆとりがある方がおいででしたら、是非八小のボランティアへのご参加をお勧めします。得意な事や好きな事を活かすことで新たな楽しみが生まれます。それにしましても、改めて先生達のご苦勞が偲べれます。もし、私が小学校の先生になるとしたら、まず根性と忍耐を身につけねば、と思っているところです。

地域の人達が上手に学校と関わることで、先生達の負担を減らせる様な協力体制を築き、息の長い連携が取れたら、子どもたちのためにもとても素晴らしい地域になると思います。その一員になれるよう今後も努めて参ります。